

【分科会記録】第 10 分科会

（参加人数 28 人）

分科会テーマ	学校図書館運営の実際（読書センター機能） 共につくる本との出会い②
司会	岡山咲子（石川県加賀市立錦城東小学校）
記録	中村仁志（長野県中野市立平野小学校）

1 発表の概要

(1) 発表者 青山里緒（石川県小松市立矢田野小学校）

発表テーマ「未来をみつめ、豊かな学びを創造する学校図書館をめざして」

- ・活字離れの傾向にある中で読書の量と質を高めるための取組として、「先生のおすすめ本の紹介」の読み聞かせ動画を配信したり、季節ごとのイベントを実施したりした。市立図書館が推薦する「本のとびら」という冊子の活用も行ったが、「読まなければ」と感じる児童も多かったことから、「本のお部屋」コーナーを設置して国語科の学習関連本を集め、読書記録を書く取組を行った。
- ・成果 取り組みをきっかけとして本の楽しみを知り、長い本に挑戦する姿が見られた。
- ・課題 学年があがるにつれて十分な読書時間が確保できていない。いつでもどこでも読書に親しめる工夫があるとよい。

(2) 発表者 中田章子（富山県砺波市立出町中学校）

発表テーマ「委員会活動から広げる読書活動」～図書室をみんなのものにするために～

- ・生徒が主体となって活動する委員会活動を通して読書活動を推奨することを願い、市立図書館で開催している「POP 展示会」に参加し、学校内でも「POP コンテスト」を実施した。市立図書館に展示されている POP を参考作品としてお借りすることで創作意欲が高まった。また、「わくわくブックビンゴ」や「ブックらポン」などの活動も行った。
- ・成果 貸し出し冊数が前年度に比べて 1,6 倍に増えた。
- ・課題 POP の評価にイラストの上手さだけでなく、本の内容の要約や面白さを伝える文章表現等に着目できるようになるとよい。

(3) 発表者 紺 聖子（富山県上市町立相ノ木小学校）

発表テーマ「本がすき！読書の輪を広げよう！」～図書委員会の取組を通して～

- ・児童が図書室に足を運び、本に親しむ機会を増やすこと、子供達が本を好きになることを目指して図書委員会の活動を考え実践してきた。「Let's read!」というシール台帳を作成し、個人や学年の目標冊数を記入した。図書委員による読み聞かせやおすすめの本コーナーの設置、校内ビデオ放送による本の紹介や図書まつりでのおみくじ、クイズなどを実施した。
- ・成果 児童一人あたりの貸出冊数が、前年度に比べ 15 冊以上増えた。
- ・課題 図書委員の過度な負担にならないようにしたい。

(4) 発表者 和田紗里花（新潟県胎内市立中条小学校）

発表テーマ「ボランティアと共に創る『読書週間』の取組」

・胎内市はコミュニティスクールを積極的に推進している。中条小学校は、古くから「地域と共にある」学校像を掲げて歩みを進めてきていた。読書週間で図書委員が行っている「本に親しむ活動」に、ボランティアの方々と共に取り組んだ。読み聞かせる時の注意点等を教えていただいた。図書委員の児童は、「ボランティアの方がいてくださったおかげで、本の選び方や読み方の工夫を知ることができて良かった」と振り返った。

・成果 児童もボランティアの方も双方ともに主体的に活動することができた。

・課題 「相手を意識して読むことに課題がある」とアドバイスをいただいた。活動の幅を広げると共に、質を高めていく。

2 討議の概要

学校図書館の読書センターとしての機能は「児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場」である。今回の実践発表では、児童一人あたりの貸し出し冊数が増えたり、児童が本の楽しさを感じて長い本に挑戦する姿が見られたり等、児童生徒が活動に対して主体的に取り組む姿が見られた。また、読書活動の実践を進めるにあたっては、公共図書館や地域のボランティアの方々との連携をしていて、更に活動を進めていく過程で学校司書の先生と司書教諭（または図書館教育系の先生）が相談して活動を進めていく上での課題を見つけ出し、その課題を協働して解決していく様子をお聞きすることができた。

課題としては、学年があがるにつれて読書時間が減少していく現状への取り組み方やPOP作りにおいて本の内容の要約や面白さを伝える文章表現の質を高める等の読書活動としての質を高めるための取り組み方等が挙げられた。すべての子どもに本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与えるためには、全校で教科指導と連動した読書指導年間指導計画を作成して、全教科・領域、全教員による指導計画に基づいて実践することが大切ではないかという意見が出された。鳥根県松江市には学校図書館支援センターがあり、支援センターが「学び方体系表」〈～松江市の子どもたちの情報リテラシーを育てる～〉を作成している。小学校1年生から中学校までの9年間で学ぶこと（指導すること）が一目瞭然であり、自分が今指導している学年の学習内容は、この先どのような学びにつながっていくのかを体系的な観点から理解して指導することができる。このような体系表を活用しながら、司書教諭（または図書館教育系の先生）と学校司書、さらには情報教育系の先生方やすべての教員が協働して学びを進めていくことも期待できるであろう。

実践発表をしてくださった先生方、司会を担当してくださった先生、分科会担当の先生のおかげで有意義な時間を過ごすことができたことに感謝して第10分科会の記録とします。